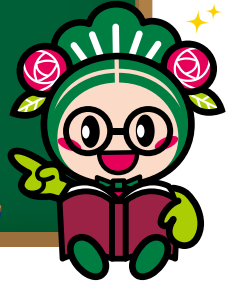


マッキーの防災教室

第2回 家の中の安全対策と日頃からの備え

皆さんこんにちは。今月は「災害に備える」をテーマにマッキーと一緒に勉強していきたいと思えます。大きな地震などが発生した時に日頃からの備えにより助かる命がたくさんあります。皆さんも自分自身を守る「自助」、地域で助け合う「共助」を身につけ、災害から大切な命を守りましょう。



家の中の安全対策って？

平成7年に発生した阪神淡路大震災では、多くの方が建物や家具の下敷きになって動けなくなり、その後発生した火災や余震による家屋倒壊により命を落とされました。

日頃から家の中の危険な場所、物を探して、安全対策を行いましょう。



家具の固定



ガラスの飛散防止



防災物品の使用



家の中にはどんな危険があるのかなあ？
自分たちでできる安全対策ってどんなんやろ？

- ◎寝室や子ども、高齢者の部屋、出入り口付近には背の高い家具は置かないようにしましょう。
- ◎重量のある家電はなるべく低い位置に置くようにしましょう。
- ◎蛍光灯や電球は割れても飛び散りにくい飛散防止の物に取り換えましょう。
- ◎感震ブレーカーを設置しましょう（市では感震ブレーカー設置に対する補助事業をおこなっています）。



日頃からの備えって？



備蓄品を備える

目安として7日分（最低3日分）の水や食料品と避難後の生活で本当に必要な物を準備しましょう。また、水や食料品は消費期限を定期的にチェックしましょう。



避難経路を考える

自宅から避難所までのルートを事前に確認しておきましょう。実際に歩いて危険箇所などを把握しましょう。



必要なものや、必要なこと、家族で話し合わなあかんでっ！



連絡方法の確認

家族が離れ離れで被災した場合の連絡方法を確認しておきましょう。公衆電話などから利用できるNTTの「災害伝言ダイヤル171」や携帯電話の「災害用伝言板」などの活用方法を知っておきましょう。



みんな自助、共助って知ってる？災害が発生した時に、一番頼りになるものやねんで。阪神淡路大震災で倒れた建物などから救助された人のほとんどが、家族や地域の人に助けってもらったんやで。大災害が発生した時は、消防署や警察署の人たちの力だけでは救助が必要な全ての人を助けることは難しいんや。まずは、自分の身を守る「自助」、そして地域で助け合う「共助」を身につけなあかんねん。自分で何ができるか、何をしなあかんか考えてみよなっ！